

日本記者クラブ会報

第513号 2012年11月10日



50歳の快挙

ノーベル医学・生理学賞受賞が決まり会見する山中伸弥京都大学教授 10月8日 京都大学

水澤圭介 撮影 (京都新聞デジタル編集部写真映像担当)

- **クラブゲスト**
オシヨテイメイ 国連人口基金事務局長
スレイマン カタール財団学生支援局長
小津博司 検事総長
遠藤哲也 一橋大学客員教授
シヨイブレ ドイツ財務相
フィッシュャー イスラエル中央銀行総裁
サーリーフ リベリア大統領
枝野幸男 経済産業相
米国人元戦争捕虜
ベンソダー 国際刑事裁判所検察官
ソウンターダ デンマーク外相
下地幹郎 防災・郵政担当相
クラーク 英国王立防衛安全保障研究所
所長
橋山禮治郎 千葉商科大学大学院客員教授
保阪正康 ノンフィクション作家
加藤昌男 元NHKアナウンサー
ワーキングプレス
「サイバー攻撃」取材班
青森「原発問題」最前線 読売新聞 若江雅子 10
東奥日報 月館慎司 11
- **地方発**
京都 山中教授ノーベル賞受賞 京都新聞 松尾浩道 12
沖縄 オスブレイ配備 琉球新報 内間健友 13
- **被災地通信**
IMF世銀総会 仙台会合 酒井原雄平 14
リレーエッセー
私が会った川内康範さん 後藤謙次 15
月光飯面は生涯助っ人
書いた話書がなかった話 小田川興 16
朝鮮半島取材40余年
被爆者問題で日韓の溝学ぶ 小田川興 18
上映会
3Dドキュメンタリー「疾走!相馬野馬追」 小田川興 18
- **テロリズムとケバブ** NHK 藤井俊宏 19
● **マイBOOKマイPR**
- **専務理事報告**
原発と自然エネルギー 北欧に取材団
アジア太平洋プレスクラブ協会に参加へ
クラブ賞候補の推薦を 中井良則 21

アルワ・スレイマン

カタール財団学生支援局長

カタールの成長はめざましい。世界最大の液化天然ガス（LNG）生産国になり、昨年の実質経済成長率は14%超、1人当たり国内総生産（GDP）は10万ドルに迫る。2022年のサッカー・ワールドカップ開催も決まった。この10年あまりの間に人口はおよそ3倍に増え、外国人が全人口の8割以上を占める。天然資源に永久に依存し続けることはできない。国づくりのビジョンで最も重



「教育都市」の拠点にした。米欧の有名大学から自国に必要な学科を誘致して高等教育の拠点をしたり、先進国企業の研究施設

急成長する国の課題

要なのは、自国の人的資源の開発だ——アルワさんの冒頭の説明が、この国の課題を端的に示す。ハマド首長が発起人となって創設し、モータ首長妃が主導するカタール財団は、教育改革や人的資源開発の推進役で、「知識を主体とする経済への移行」を目標に掲げている。ワールドカップでは、「夏場の最高気温が50度に達する中で、ソーラー・エネルギーを利用して開放型のスタジアムを23〜24度に保つ」計画も関心を集めるだろう。石油や天然ガスの国内消費急増にブレーキをかけ、資源の輸出余

10・1（月）記者会見 司会 杉尾 秀哉委員 通訳 池田薫 出席 21 人 HP動画

脇 祐三 企画委員 日本経済新聞コラムニ

ババトュンデ・オシヨティメイン

国連人口基金事務局長

10月1日は「国際高齢者デー」。この日にあわせて来日し、事務局長自ら世界の高齢化に関する報告書を発表した。日本で行った理由は、「世界でもっとも高齢化が進んだ国で、先頭に立って課題に取り組み学ぶ点が多いから」。世界で60歳以上の人は現在8億人余り。1秒間に2人が還暦を迎え、10年後には10億人、2050年には20億人に達するという。5人に1人が60歳以上とな

る。日本はすでに60歳以上が人口の30%を超えている世界で唯一の国だが、2050年には40%台に突入り、韓国や中国も30%を超える。高齢化に関する報告書のポイントを事務局長は3点あげた。①予想以上に早く進んでおり、先進国より途上国の高齢化のスピードが速い。②高齢化はチャンスであると同時に大きな課題である。③高齢化は将来ではなく現在の問題である。寿命が延びたことは歓迎すべきだが、高齢者が差別や虐待、社会的孤立など様々な困難に直面していると、事務局長は年齢や性別による

高齢化は将来でなく現在の問題



差別を撤廃し、高齢者の権利と自由を守ることの重要性を訴えた。そのために、医療や社会保障制度の充実に向けた政策を各国政府に求めた。「高齢者が安心して暮らせるように、雇用を確保し、安価な住宅や交通手段を提供する必要があります」。若者が多い途上国も高齢化は避けて通れない。2050年には世界の60歳以上の人の80%が途上国で暮らす人々だという。その人た

10・1（月）記者会見 司会 富田 一雄委員 通訳 池田薫 出席 54 人 HP動画

NHK解説主幹 二村 伸

えんどう 遠藤 哲也

一橋大学客員教授

おつ ひろし 小津 博司

検事総長

「2030年代に原発ゼロ」をめざす政府のエネルギー戦略。その決定に至る過程は問題が多かった。問題の1つは国際的な波紋、特に日米関係への影響について、国民への説明がほぼ皆無だった点だろう。遠藤氏の話は「国民的議論」で欠けていた空白の部分を補ってくれた。



遠藤氏は1988年に結ばれた日米原子力協定の日本側交渉責任者を

「検察不祥事の病巣の核心は一言で言えば、何だったのか？ 総長の言葉で語ってほしい」 筆者の質問に小津総長は「一言では言えない」とした上でこう語った。「二度走りだしたらブレキがかからない体質がある」



「検察不祥事の病巣の核心は一言で言えば、何だったのか？ 総長の言葉で語ってほしい」 筆者の質問に小津総長は「一言では言えない」とした上でこう語った。「二度走りだしたらブレキがかからない体質がある」

原発ゼロ 日米原子力協定の行方は？

強めていると指摘した。2つ目の理由は、世界の原発が今後も増えていく見込みなのに、原発ビジネスや核不拡散で「頼りにしてきた（日本という）パートナーが消えていく」ことへの不安という。3つ目の理由にあげたのは、核融合など「高度の原子力技術」の研究開発でもパートナーとして協力してきた日本が脱落していくことへの懸念だった。

更新を拒む恐れがあると警告した。遠藤氏は日米協定を現在の形で延長すべきだと主張する。この立場には異論もあるだろう。ただ、少なくとも言えることが1つある。野田首相は「原発ゼロ」を「国民の覚悟」としてきた。だが、判断を下すのに必要な情報も示されずに国民は「覚悟」など持てるのか。遠藤氏が求める対外的な「説明」はまず国内で尽くす必要があると思う。

読売新聞編集委員 大塚 隆一
10・4（木）シリーズ企画「3・11大震災」司会 協祐三委員 出席
84人 HP動画

信頼回復へ「変わらざるを得ない」

「1番大きい」のは、再処理で生じるプルトニウムの扱いが不明な点。米国は「どこに使うつもりか」と懸念を

「小津キャブテン」が握る操縦かんを注目し続けていきたい。TBSテレビ社会部長 本田 史弘
10・3（水）昼食会 司会 藤延直 道理事 瀬口晴義委員 出席 75人 HP動画

スタンレー・フィッシャー
イスラエル中央銀行総裁

東京で48年ぶりに行われた国際通貨基金（IMF）・世界銀行年次総会のために来日したイスラエル中央銀行総裁のフィッシャー氏は、IMF筆頭副専務理事、シテイグループインタナショナル社長を歴任した華々しいキャリアにふさわしく、会見ではイスラエル経済から世銀改革まで幅広い話題に言及した。

アラブの春やイランの核開発問題など、政治的に話題に上ることが多いイスラエルについて経済面から光を当てた。イスラエルは2008年の世界同時不況を切り抜け、好調な経済成長を遂げている。フィッシャー氏は、「均衡予算を達成しており、銀行システムも強固で、国際収支も黒字だった」と、不況前から経済が良好だったことに加え、「金利政策でも迅速に対応し、為替に積極介入した。財務省も中小企業の資金繰り支援を行った」ことを要因にあげた。イスラエルは今年、付加価値税や所得税の増税などの税制改革を行った。財政赤字を対GDP比2%に抑えるという目標を掲げているが、今

堅調な国内経済に自信

年はそれを上回る可能性があったためだ。フィッシャー氏は、「来年の選挙が難しくなるにもかかわらず、政府は問題を認識したら即座に対応した」と評価する。国民の人気取りに走らず、財政規律を守るため厳しい判断もいとわぬ姿勢は日本も見習う点が多いのではなからうか。フィッシャー氏は、学者ならではの要領を得た分かりやすい説明で、ヨーロッパの影響力を弱めるための出資比率の見直しなど、世銀



は確かだ、今後の行方を注視したい」などと、控えめな回答に終始した。中東を取り巻く問題の大きさからすればさらに踏み込んだ発言も聞きたかった。

読売新聞国際部 上地 洋実
10・11（木）記者会見 司会 実哲
也委員 通訳 秋山賛 出席 28人
H P 動画

ヴォルフガング・シヨイブレ ドイツ財務相

日本で開いた国際通貨基金（IMF）・世界銀行年次総会の過密スケジュールを縫っての会見だった。シヨイブレ財務相はメルケル政権を支えるドイツ政界の重鎮だ。

欧州債務問題は世界経済の行方を左右する。話の焦点は、次の問いにどう答えるかだった。「ドイツはなぜ、南欧の支援に慎重なのか」



欧州危機も3年。この間ギリシヤなどの問題国に大國ドイツがなかなか思い切った支援をせず、危機が深刻化したという指摘もある。著名投資家のジョージ・ソロス氏は、「ドイツの『支援が』できないモード』は危うい」と批判する。シヨイブレ氏の答えは2つあった。1つは「ドイツが財布のひもを緩めても、問題国が構造改革をしななければ解決にはならない」。南欧諸国は高い賃金などで産業競争力を落

欧州危機 問われる民主主義の真価

とした。この構造問題を改めないと税収は増えず、財政は健全化しない。もつとも、2つ目の回答が同氏の本音のような気がした。いわゆる「民主的なプロセスで支援を進めよう」とすれば時間がかかる。ドイツは来年、総選挙を控えている。国民の間でも南欧支援には不満が根強い。「支援はドイツのためでもある」と国民を説得する必要がある。

民主主義は欧州危機のキーワードだ。財政の健全化は国民に痛みを強いる。その国の為政者はもちろぬ、健全化を条件に支援した国も反発を買う。だが、民主主義を選んだ以上、異なる意見を持つ人々が話し合い、決めていかなければならぬ。シヨイブレ氏は英哲学者、カール・ポパーの言葉を使つて強調した。「自由な社会では、過ちを修正しながら試行錯誤を重ねていくものだ」。欧州危機は解決までに時間がかかるだろう。それは、民主主義の真価を問いなおす過程でもある。

日本経済新聞編集委員 梶原 誠
10・11（木）記者会見 司会 小孫茂理
事・企画委員長 通訳 桑折千恵子
蔵原順子 出席 128人 H P 動画

えだの 枝野 幸男 経済産業相

政治家には世界的な時代認識が必要だ。党利党略や目先の政局に右往左往する姿ばかりを見せつけられていると、「脱近代化」という言葉でも新鮮に響く。現役大臣が何を語るのか。会場に足を運んでみた。

政治家には世界的な時代認識が必要だ。党利党略や目先の政局に右往左往する姿ばかりを見せつけられていると、「脱近代化」という言葉でも新鮮に響く。現役大臣が何を語るのか。会場に足を運んでみた。

脱近代化と負の再配分

これら議論は概ね間違っていないのだから。しかし、「欲しいものがないから日本がデフレなのは当たり前。モノの値段は需要と供給の関係で決まるといふのは、中学校の社会科学の教科書に載っている」という断定は、少し乱暴では。



需要と供給の関係で決まるのは個別の財やサービスの価格で、消費者物価などはまた別だ。「脱近代化」というなら、今日のグロー

10・15(月)記者会見 司会 倉重篤郎委員 出席 89人 HP動画

矢田 義一

エレン・ジョンソン＝サーリーフ リベリア大統領

昨年、サーリーフさんがリーマ・ボウイーさんと一緒にノーベル平和賞を受賞したとき、私はどちらかといえばボウイーさんの「セックス・ストライキ」という非暴力運動に興味をひかれた。アリストパネスの『女の平和』を連想した人も多かったと思う。私もそ



そのボウイーさんが、今度は男たちではなく、盟友であるサーリーフさんに噛みついた。

国民和解と『女の平和』

言っていると外電が伝えている。まさにそんな折に今回の会見が開かれた。

大統領はいつきにしゃべった。わずか46秒間のコメントだった。長く続いた内戦では、27万人の死者と80万人の難民が出た。その地で、民主化と経済復興を目指すのは並大抵な仕事ではない。あらゆる有能な人材を総動員しなければならぬだろう。

10・12(金)記者会見 司会 会田弘継理事・会報委員長 通訳 西村好美 出席 51人 HP動画

フジテレビ国際局長 熱田 充克

ファトウ・ベンソーダ
国際刑事裁判所(ICC)検察官

国際社会の名において、大量虐殺や人道に対する犯罪などの責任者を裁く。これを可能にした国際刑事裁判所(ICC)の設立は、大げさに言えば人類史にとって画期的なことだ。ファトウ・ベンソーダ検察官は設立からの10年を「国際社会の大きな成果だ」と振り返った。

西アフリカの小国であるガンビア出身であり、ルワンダ国際刑事裁判所など国際司法分野の経験が長い。



6月に検察官に就き、ICC検察局を率いる。10年前に5人のスタッフで始まった検察局は現在、300人を抱える。「最も困難だった捜査」を問われ、「ICCの捜査はすべて複雑で難しい」と力を込めた。捜査対象は継続中の紛争や武力衝突であり、証人やスタッフの安全確保に神経を使う。ダルフルではスーダン政府の協力が得られず、捜査は17カ国で行われ

大量虐殺などの捜査を指揮

た。現地語を法廷に耐える英語に翻訳する苦勞もある。ICCの裁判権は、原則として加盟国の領土内か国籍者しか及ばない。非加盟国への捜査は、その国がICCの裁判権を受け入れるか、国連安全保障理事会の付託が必要となる。「非加盟国のシリアは捜査ができない」。内戦中のシリアについてはいらだっているようにも聞こえた。

ICCはこれまでいづれもアフリカの7地域における15事件を捜査し、29人を起訴。一人には判決も出ている。地域的な偏りに批判

もあるが、「裁判権の範囲内では同じ基準を適用している」と訴えた。121カ国が加盟するが、アジアや中東の加盟国は少ない。安保理常任理事国の5カ国のうち、米国、ロシア、中国が加盟していない。

混同されがちな国連機関の国際司法裁判所(ICCJ)と異なり、ICCは加盟国の拠出金で運営される。日本は最大の拠出国だ。「国際社会にICCの意義を説いてほしい」とも。会見翌日には広島に向かった。

東京新聞外報部 中澤 穰
10・17(水)記者会見 司会 杉田 弘毅委員 通訳 長井鞠子 出席 31人 HP動画

米国人元戦争捕虜

「サムライ文化」は「勝者がすべて」というものだった。その文化は「展示物」だけにして、日本は我々のような(捕虜を人道的に扱う)国になってほしい」

太平洋戦争で日本軍の捕虜になり、虐待を受けた元米軍捕虜の言葉だ。3回目となった日本政府の招待で来日した元米軍捕虜は87歳から95歳までの7人。車椅子でやってきた人もいる。彼らのうち5人は、戦争初期フィリピンのバターン半島で起きた「バターン死の行進」の生存者だ。「バターン死の行進」では、日本軍の捕虜となった7万余の米兵と軍属が数十キロを歩かされ、マラリアや飢え・病氣・虐待等で1割以上が死亡したとされる。

「水もなく食べ物もなく65マイル(約100キロメートル)歩かされた」「行進で遅れをとると殴られ、ついてゆけなくなると撃ち殺された。私は当時19歳で若かったので生き延びることができた」。記者会見での証言である。日本は、「捕虜取り扱い規則」で捕虜虐待を禁じ、日露戦争でも捕虜を丁重に扱っている。しか

バターン死の行進生存者の証言



し、第二次大戦では「帝国軍人は俘虜たるは予期せざるもの」と捕虜になることは恥とし、その考え方が敵方の捕虜の扱いにも及び、殴

「戦いをやめて武器を捨てた捕虜には、人道的扱いをする」。このジエントルマンシップは、戦時の捕虜の扱いにかぎらず、日頃から、日本人同士においても、外国人との付き合いにおいても、戦後の日本の民主主義が本物かどうかをためす尺度になるのである。

山陽放送出身 原田 健男
10・16(火)記者会見 司会 露木 茂委員 通訳 宇尾真理子 渡辺奈緒子 出席 18人 HP動画

しもじ 下地 幹郎 防災・郵政担当相



郵政民営化・防災担当相として初入閣するとともに、党の幹事長を務める。所管の政策課題から政局対応、さらに沖縄選出た一人の与党議員として基地問題にも言及、多面的な内容の記者会見となった。

衆参わずか6人の小政党だが、4人を内閣に送り込む。今や衆院過半数割れにおびえる野田政権を真ん中で支える存在だ。

一方で小政党ながらの「転変」も余儀なくされる。小泉・郵政改革に反対し、結党して7年。中心メンバーの綿貫民輔、亀井静香両氏は去り、発足後に加わった下地氏が重責を担う。記者会見も生き残りを模索する小政党の姿を印象づけた。

「郵政改革法案」を取り下げて「民営化法」の改正で対応した妥協を綿貫、亀井両氏に「大変怒られた」と紹介しながら、「名を取るか実を取

「転変」で問われる手腕

るか。名前にはこだわらざるべきではないと申し上げてやらせていただいた」と説明。次期衆院選後の党の在り方についても「日本の政治がどうなるか。どこかの政党が単独過半数をとる確率は小さい。政界がどうなるか分からないのは国民新党だけではない。そのタイミングでどうするかを考える」と「流動化にらみ」の姿勢を示した。

民主党に対しては「党内融和」の党運営を注文、「これ以上、一人でも離脱者を出さないことだ」と強調した。民主党が崩れれば、国民新党の存在価値も失われる。

10・22(月) 記者会見 司会 川上高志委員 出席 35人 HP動画

沖繩の基地問題では「人としては悩んでいる」としながらも「政治家としては閣内不一致にならないよう、政府の方針を守りながら沖繩の声を伝える役割をしたい」と述べた。郵政の新事業、防災予算の全国展開などの政策課題も含め、「転変」しながら存在感を示さなければならぬ。幹事長、担当相の二役の手腕が問われる局面が続く。

企画委員 共同通信論説副委員長 川上 高志

ヴィリー・ソウンダール デンマーク外相

会見のテーマは、北極圏をめぐる国際的なルール作りという、極めて今日的な問題だ。

「地球温暖化によって北極海一帯の水が溶け、それが新しい機会を生み出している。日本にも大いに関わりがある話です」と口火を切った。

第1は、新しい海上航路の問題だ。ロシアや北米大陸の北岸沿いを航行する船は昔、年間100隻以下にとどまっていたが、最近、

東アジアと欧州間を中心に数が増加。航路開発や衝突事故への対応策作りが急務となっている。

第2は、天然ガスや石油、レアアースなどの資源探査問題だ。まだ未知の分野だが、各国の関心は高い。今のままでは資源争奪戦による対立や環境破壊が起きかねない。

協議の舞台は、米国、カナダ、ロシア、デンマーク、ノルウェー、フィンランドなど沿岸8カ国が作る北極評議会だ。

ソウンダール外相は「日本こそがオブザーバーになり、ルール作りの議論に参加してもらいたい」と強調

北極圏の幅広いルール作りを提唱

した。日本はすでにオブザーバーによる参加を申請しているが、評議会内の意見がようやくまとまり、中国や韓国などとともに来年にも申請を認める空気になっているという。

デンマークは地球温暖化防止のため二酸化炭素(CO2)排出抑



制に熱心だが、その国が、温暖化によって生まれる北極圏開発の恩恵についてのルール作りに関わるのは、皮肉な巡り合わせでもある。海外領土である世界最大の島グリーンランドの資源開発の問題も浮上している。

昨年10月に誕生した中道左派連立政権で初入閣した。最近まで第3政党の社会主義人民党党首。会見では、自国が得意とする風力発電やバイオマス利用についての質問にもデータを示して丁寧に答えていた。

朝日新聞論説委員 脇阪 紀行

10・22(月) 記者会見 司会 脇阪三委員 通訳 池田薫 出席 24人 HP動画

はしやま 橋山 礼治郎
れいじろう 橋山 礼治郎
千葉商科大学大学院
客員教授

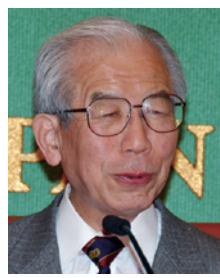
マイケル・クラーク
英国王立防衛安全保障研究所(RUSI)所長

夢の超特急か、世紀の愚策か。JR東海が東京―大阪間で建設しようとしているリニア中央新幹線に疑問を投げかけた『必要か、リニア新幹線』（岩波書店）の著者、橋山氏を招いての会見だった。

創立以来181年、大英帝国の外交を支え、現代の英外交にも多大な貢献をしている。そのRUSIがクラーク所長ら主要幹部を訪日させたのは、今年初めにアジア太平洋地域を統括す

公共事業など巨大プロジェクトの着手にあたっては、①需要があるのか採算がとれるのかという経済性、②安全性などの技術的信頼性、③自然環境や地域社会を壊さないといった環

るRUSIアジア本部（秋元千明所長）を東京に開設したお披露目の意味がある。アジア進出の最大の理由は、世界の政治、経済、軍事の重心が欧州からアジア太平洋へシフトし始めたからだ。とりわけ急速な台頭を続ける中国やインドの動向は、いやでも欧州に影響を与えずにはいない。折りしも尖閣諸島問題などで日中対立が高まっている時期とあつて、会場の質問も中国に関するものが多かった。クラーク所長は「長期の外交戦に勝てるだけの能力と国際的地位が日本にはある」と間接的なエー



進めようとしたドイツが事前評価の結果、途中で計画を中止した事

環境適応性の3つの条件をクリアしなければ成功しないと、橋山氏は強調する。リニア計画には、9兆円という投資額に見合う需要が見込めないこと、電磁波の遮断、非常時の避難路の確保が難しいこと、膨大な電力を消費することなど、3条件のいずれも満たさない。やはりリニア計画を

世界最古シンクタンクのアジア進出



が「譲れない一線」を明示することの重要性も指摘した。日本の安全保障の基軸が日米安保体制にあるのはいうまでもないが、英国は米国との緊密な関係に加え、北大西洋条約機構（NATO）や英連邦などを通じて重層的な安保協力関係を築いているとい

ルを送つて冷静な対応を勧める一方で、日本

を学びながら、「米国頼み」一辺倒でなしに多角的な協力ネットワークを拡大することで、より深みのある安保政策を構築できるのではないかと期待を感じさせられた。英国は、自民党政権時からNATOと日本を結ぶ架け橋の役割を果たし、野田佳彦政権下でも防衛協力を拡大中だ。RUSIの進出を機に、官民の人材交流を通じて日英の絆を深められるといい。

リニア新幹線、情報し再検討を

例を挙げるなど、世界の巨大プロジェクトの成功、失敗例をひきながらの橋山氏の話には説得力があった。開通してから半世紀たった東海道新幹線の老朽化、地震対策を急がなければならぬ事情に理解を示しながらも、それがリニア計画に直結する理由がわからない、という。いまJR東海が取り組むべきことは、東海道新幹線の抜本的な耐震工事であり、よしんばバイパスが必要だとしても、技術や安全性、電力消費面で問題の多いリニア方式に執着するのではなく、

信頼性の確立している新幹線方式の方がいいと提案する。JR東海や政府は正しい情報をきちんと出して説明すべきで、ドイツのように、今からでも再評価、再検討する場を設けてはどうかという。需要がある「はず」だとして事業に着手し、見込み違いだとわかっても、やる「しかない」と突き進み、失敗した巨大プロジェクトの事例は、世界にたくさんある。

企画委員 朝日新聞出身 村田 泰夫
10・24（水） 著者と語る 司会
村田泰夫委員 出席 52人 HP動画

企画委員 産経新聞説論副委員長 高畑 昭男
10・23（火） 記者会見 司会 高畑 昭男委員 通訳 池田薫 吉國ゆり
出席 66人 HP動画

かとう まさお
加藤 昌男 元NHKアナウンサー

ほさか まさやす
保坂 正康 ノンフィクション作家



領土紛争の背景には必ず歴史認識問題が横たわる。当事国にとつては、事実認識や価値観、さらには国家観や生活感情がからみ、会話の糸口さえ見つからないことがしばしばだ。

そこで、領土交渉は国際法や条約の解釈に徹し、解決のできない歴史認識問題

日本のテレビ放送が始まって間もなく60年。この間のテレビにおける「ことば」の変遷と現状に、アナウンサーとして、後進を指導する立場として、長く放送に携わってきた加藤昌男さんが考察を加える。

話は昨年の「3・11」を伝えた「ことば」から始まった。想定外の事態に直面する中で、事の重大さに比してテレビの「ことば」の乏しさが明らかになる。乏しいながらも抑制の効いた

は避けるべきだという意見と、いや、歴史認識の問題を避けての問題解決はありえないとの意見に分かれる。国際法学者と歴史学者の対決という構図でもある。

日本の近代史に造詣の深い保坂さんは当然後者の立場になる。領土問題を解決するためには、歴史問題にきちんと対処すべきだとの主張だ。竹島、尖閣諸島など日本近海で最近起きた事件は、「歴史的な異議申し立て」であり、「きちんと歴史的に答えるべきだ」との主張になる。

日本政府が展開する「固有の領土論」についても、「回答になつてい

1週間が過ぎると、刺激的な口調や仰々しい字幕が踊る。饒舌なテレビへと戻る過程を示す。

放送の現場に身を置く一人であり、震災報道に関わった当事者として、自戒を込めて振り返らざるを得ない指摘である。

歴史を振り返る中で、テレビのことばの変質の境目を80年代初頭とし、技術革新をその引き金のひとつと捉えたことが興味深い。撮影機材の小型化・編集機器の進化で高められた機動力と録音音質の向上は、「よそ行き」ではない「日常の」ことばを放送に乗せることにつながり、変質

領土問題 歴史の再構築が必要だ

ない。説得力がない。意味がない」と厳しく批判する。そして、「第二次大戦で問われたことをきちんと答えねばならない」とし、「歴史の中から、どう解決するのか」を考へるべきだと訴えた。

特に、保坂さんが強調するのは近代世界を席巻した帝国主義的手法への問題意識で、「もはや帝国主義的手法は使わない。あなた方も使うべきではない」との論理を基本にすべきだと主張した。明らかに、中国との交渉をイメージしたもので、中国の行動が、今後日本最大の問題になるとの示唆で

テレビの「ことば」が与える影響



を促したとする。

テレビの「日常化」「大衆化」で産み出された価値は無論小さくないであろう。だが一方で硬軟織り交ざった雑多なことばを発信する饒舌なメディアに変容したことは、言語文化の価値にどれほどの影響を及ぼしたか。ことばは不変でないと認め寛容さをもつてしても、「テレビの日本語」が「日本語」に与える影響を看過することは、少なくともテレビの中

もあつた。

その一方で、数年前から東アジアの国際関係が「同時代史的理解から歴史理解へ移行し始めた」と指摘し、「歴史の端境期」という言葉を使った。時代の変革期にあたり、歴史理解の再構築が必要だとの主張でもあり、なぜ、最近、領土問題が統発するののかとの疑問への回答にもなつてきた。「歴史の意味」を考えさせられた講演だった。

毎日新聞出身 石郷岡 建

でことばを生業とする者として許されないものを感じる。

歴史を振り返った後に、加藤さんは「いざというとき、テレビは確かなことばで伝えられるのか？」と問いかける。高画質・高音質・大画面の時代に、ことばひとつで現実の出来事は絵空事になりうる。視聴者を「傍観者」にしないための確かなことばを紡ぎ出さなければ。

テレビ東京アナウンス部 斉藤 一也

10・25(木) 著者と語る「テレビの日本語」司会 露木茂委員 出席 41人 H P 動画

10・25(木) 研究会「領土問題」① 司会 山岡邦彦委員 出席 114人 H P 動画・会見詳録

「サイバー攻撃」取材班

空間の攻防

攻撃者に迫る手掛かり探して

▼若江 雅子

(読売新聞東京本社社会部)

昨秋以降、中央官庁や企業の重要情報が盗み取るサイバー攻撃の被害が増えたというより、何年も前から水面下で続いていた被害が最近の調査でようやく判明した、というケースが多い。きっかけとなったのは、防衛産業会社「三菱重工」へのサイバー攻撃を明らかにした昨年9月の読売新聞の報道だったと自負している。

●「失態」として隠す被害者に危機感

特定の組織や人物を狙い、ウイルス付きのメールなどを送って感染させる「標的型攻撃」。読売新聞がその存在に注目し始めたのは2008年だ。一部の情報セキュリティ関係者の間で問題視されていたが、被害者が「失態」として隠そうとするため、攻撃の存在そのものが社会にほとんど知られていなかった。

一方で、欧米では政府や軍、企業

が被害を次々と公表、国を挙げての対策に乗り出していった。「このままでは日本は立ち遅れる」。そんな危機感から始めた取材だったが、関係者の口は重かった。

取材が難航する中、「三菱重工のコンピュータが大量にウイルス感染している」との情報を得たのは昨年夏。最新鋭の潜水艦や原子力プラントを建造している施設も感染し、情報が中国にあるサーバーに送信された痕跡も残っていたという。裏付け取材を進め、昨年9月19日の朝刊1面で報じた。

その後は、せきを切るように、ほかの防衛産業や衆参両院、官庁などがサイバー攻撃を受けていた事実が発覚した。このうち、11月2日の朝刊で報じた参院への攻撃の事実は、読売新聞が民間のセキュリティ関係者らとともに調査して初めて判明した。実は、その3カ月前、同一犯とみられるグループは衆院のサーバ

への侵入に成功していた。衆院は被害を把握した後も、隣の参院に情報を伏せ、参院は取材を受けるまで、被害に気付かず、傷口を広げていた。こうした報道が続くうち、「被害を受けること自体が恥ではなく、むしろ、その後に適切に対応できない方が問題」という認識が次第に社会に浸透していったと感じている。

それこそが、私たちが伝えたかったことだ。攻撃者は何年もかけてターゲットを調べ尽くす。対抗するには、攻撃手法などの情報を防衛側で共有する他なく、それにはまず被害者が明かさなければならぬからだ。

●現実感の乏しさが対策の遅れに

もう一つ目指していたのが、攻撃者の実像に迫ることだ。サイバー空間の攻防は見えにくい。国や企業の対策の遅れは、この現実感の乏しさに一因があると私たちは考えていた。

昨年暮れ、気になる情報が入ってきた。衆参両院を狙った攻撃で、抜き取られた情報の送信先の一つに、中国人名のようなメールアドレスが使用されていた、というのだ。「攻撃者と関係があるのではないか」。アドレス情報を元に調査を進めた結果、05年当時、南京大大学院生が使用していたことをつかんだ。

元院生の周辺を取材した結果、元院生は中国人民解放軍の幹部として入学し、サイバー攻撃に関する技術を研究していたことがわかった。やっと元院生に接触できたのは今年6月。7月10日の朝刊1面で「中国軍関係者関与か」と報じた。昨秋以降の一連の攻撃で、攻撃者をたどる手掛かりを見つけたのは初めてだった。

●事態は想像を超えて潜行？

一連の報道後、国はようやく重い腰を上げ、対策に乗り出した。重要インフラ企業などと情報共有する体制を作り、全官庁にサイバー攻撃の即応チームも作った。

だが、事態はこれまでの常識からは考えられないほどのスピードで進行している。08年、同僚記者が欧州でウイルスによるパソコン遠隔操作の実演取材し、驚いていたのを思い出す。4年後、遠隔操作ウイルスが4都府県警での誤認逮捕を生み、捜査のあり方そのものを揺るがしていることを考えると、数年後に世界を揺るがす事態が今、潜行しているのかもしれないと思う。

わかえ・まさこ 1988年入社 2008年から社会部デスク

青森「原発問題」最前線

新工ネ戦略

霞ヶ関、永田町の思惑に翻弄されて

▼月館 慎司
(東奥日報報道部)

9月15日午前9時、青森市内のホテルで枝野幸男経済産業相と、三村申吾知事ら本県の原子力関連施設設立地自治体の首長らが向き合った。ピ

ーンと張り詰めた空気の中で、枝野氏から冒頭出た言葉が「エネルギー・環境戦略の議論の過程で、いろいろとご心配、ご迷惑をおかけしたことをおわびします」だった。

政府は前日14日、東京電力福島第一原発事故を踏まえて、「2030年代に原発稼働ゼロ」を掲げた新たなエネルギー戦略を決定。本県などが求めてきた、原発維持が前提となる使用済み核燃料の再処理事業の継続も盛り込まれた。相反する2つの記述。次期衆院選にもらみ世論受けがいい脱原発依存をアピールする一方、本県など立地自治体に配慮した結果、矛盾だらけの新戦略となった。新戦略の説明のために来県した枝野氏が言うように、策定作業が本格化した今夏以降、本県は原子力をめぐ

る関係閣僚の発言や霞ヶ関や永田町の思惑に翻弄された。

国への不信任一気に爆発

政府が国民からの意見聴取会や意見公募などを踏まえて「原発ゼロ」に舵を切る中、再処理を含む核燃料サイクル事業も見直されるとの観測が広がった。8月下旬と9月上旬、三村知事は上京し関係閣僚にサイクル堅持などを直談判した。だが9月7日、民主党調査会が「原発ゼロ」と「サイクル見直し」を盛った提言書を野田佳彦首相に提出。これで新戦略の方向性は決まったかにみえた。

同日、サイクル施設を抱える六ヶ所村議会が、再処理撤退の場合、使用済み核燃料の村外搬出や、英仏両国から返還される放射性廃棄物の受け入れ拒否を国や県に求める意見書を可決。燃料の村外搬出は県と同村が事業者と交わした覚書に明記されている。さらに建設中の使用済み核

燃料中間貯蔵施設を有するむつ市の宮下順一郎市長も同調するように、燃料受け入れの拒否を示唆。新戦略決定直前で国への不信任が一気に爆発し、潮目が大きく変わった。



枝野経産相(左奥)と、本県の原子力施設立地自治体の首長ら(右側)の会談
東奥日報提供

的な課題を軽視したことが原因。三村知事は新戦略の検討が始まった昨年からの機会をとらえて、使用済み核燃料の一時貯蔵を認めるなど国策に協力してきた経過や、覚書の存在を訴えてきた。その間、政府が本県を含めた立地自治体から意見を聞くことはなかった。新戦略策定の最終盤、本県が一貫して主張してきたことを「脱原発の抵抗勢力」「地域エゴ」と受け止める中央の的外れな風潮があったのは残念だった。

この動きに驚いたのはサイクル政策を担う経産省だけでなく外務省だった。これまでの約束を破棄すれば国際問題に発展しかねない。実際、英仏両国は政府に返還廃棄物の受け入れを念押しした。首相は原子力協定を結ぶ米国に補佐官らを派遣し、政府方針に理解を求めた。関係閣僚は軌道修正するように、本県の立場に理解を示す発言を繰り返した。

地域エゴなのか 残念な中央の風潮

一連のドタバタ劇は、政府・与党が政権浮揚への思惑を先行させて「原発ゼロ」を打ち出したものの、使用済み核燃料の取り扱いなど現実

新戦略策定が大詰めを迎えた8月下旬以降、サイクル事業などをめぐって政府、与党から発信される内容がころころ変わり、関係自治体とともにわれわれマスコミも振り舞わされた。そのたびに関係首長らにコメントを求めるのだが、「どうせまた政府の考えが変わるので、いまコメントしても仕方ない」と言われる始末。また、返還廃棄物に関連して英仏の大使館に取材を試みた。これまで大使館取材をしたことがなく、一地方紙に対応してもらえるのか手探りだったが、案の定、問い合わせに対する回答がなかなか返って来ないなど苦労した。

つきだて・しんじ 1991年入社
政経部 東京支社編集部などを経て
12年春から報道部

山中教授ノーベル賞 京大記者クラブ

受賞会見は午後8時?!

広報室と番記者の長い1日

■松尾 浩道
(京都新聞文化報道部)



山中教授の受賞会見の様子。記者クラブの記者も参加。京都新聞提供

京都大の山中伸弥教授が、人のiPS細胞の樹立を発表したのは2007年11月。「ノーベル賞級の成果」との声がすぐに上がった。とはいえ、実用化への道筋はまだ見えにくい状態。翌08年10月のノーベル賞発表時、各社の「山中警戒」の記者は、まばらだったように記憶する。それからわずか4年。午後4時半に開場した京大の記者会見場の90席は一瞬で埋まった。その2時間後、大歓声が沸いた。

今年の10月8日は体育の日で、大学は休み。それだけではないが、当分の山中教授まで休みだというので困った。9月下旬からの京大記者クラブと大学広報との事前打ち合わせでは、「山中教授は8日は自宅以外の大阪市内で過ごしている。受賞の場合は、そこから京大に向かって午後8時をめどに会見を始める」とのことだった。各社の反応は「遅い。京都で待機してもらって会見は午後7時に始めてほしい」。

6時間前から順番取り

昨年までの発表日は平日で山中教授は京大にいたため、会見は午後7時から設定されていた。各社がせっつく最大の理由は、会見後の個別取材の時間が遅くなることにある。10分間の個別取材では各社とも電話対談などを予定しているが、くじ運が悪く最後の方の順番に割り振られれば、新聞の早版などでせっかくの企画が翌日の紙面に載らない、という事態があり得た。

記者クラブの総意として、「会見を午後7時に始められるよう配慮してほしい」と京大を通じて山中教授に申し入れた。だが、結論は変わらなかった。「iPS細胞を使った臨床研究が始まる予定の」来年ならまだしも、今年の受賞はない」と山中教授自身が話しているという情報が伝わってきた。「マスコミの勝手な盛り上がりには付き合う必要はないかと納得した反面、「頑固な人だな」とも思った。

発表当日は午後2時に記者室や会見場がある京大本部棟に着いた。既にカメラマンなど数人が、記者会見場の順番取りに並んでいて驚いた。「会見開始の6時間前からスタンバイする必要が果たしてあるのだろうか」。まあ、そう思うわたし自身も来ているのだが。案の定、開場の午後4時半前には長蛇の列になった。なんだか緊張する。

広報室に動きが…ひよっとして

午後6時。ほとんどの記者が本部棟5階の会見場で待機する中、広報

担当の職員が詰める1階の広報・社会連携室の前にいた。職員の動きを観察するためだ。あわただしく電話応対をしていた室長が、おもむろにリップクリームを塗りだした。緊張で唇が乾いたのか。念のためにカメラを取り出していると、ガラス張りの室内にブラインドが下ろされた。「これはひよっとすると」。山中教授からの連絡で、大学幹部は早い段階で受賞を知らされていたらしい。

会見場での山中教授は、いつものように、記者の質問に対して瞬時に言葉を選び、ユーモアを交えて答えていた。受賞決定の一報をいつどこで受けたかと問われると、「自宅で洗濯機がガタガタいうのを直しているところだった」。事前打ち合わせで「自宅以外にいる」というのはどうなったんだ、との多くの記者の思いは、笑いの中にかすんでいった。話術もノーベル賞級だった。

まつお・こうどう 1999年入社
2010年から文化報道部

一口メモ
京都大学記者クラブ
13社が加盟。47ある京大の全窓口に記者がレクチャーをはじめた。細胞系研究が学部の「ワーク」する。京都府内発表の「やわらか」な成果が「多」い。S科の「多」い発表も「多」い。P科の「多」い発表も「多」い。F科の「多」い発表も「多」い。G科の「多」い発表も「多」い。H科の「多」い発表も「多」い。I科の「多」い発表も「多」い。J科の「多」い発表も「多」い。K科の「多」い発表も「多」い。L科の「多」い発表も「多」い。M科の「多」い発表も「多」い。N科の「多」い発表も「多」い。O科の「多」い発表も「多」い。P科の「多」い発表も「多」い。Q科の「多」い発表も「多」い。R科の「多」い発表も「多」い。S科の「多」い発表も「多」い。T科の「多」い発表も「多」い。U科の「多」い発表も「多」い。V科の「多」い発表も「多」い。W科の「多」い発表も「多」い。X科の「多」い発表も「多」い。Y科の「多」い発表も「多」い。Z科の「多」い発表も「多」い。

オスプレイ配備

“合意ほご”の飛行続く
政府の対応も形骸化

内間 健友

(琉球新報政治部)

時計の針が午後10時を超えると怒りがこみ上げてきた。10月30日夜、沖縄で米海兵隊の垂直離着陸輸送機MV22オスプレイの配備が始まって以来、わずか1カ月足らずで、海兵隊が日米合意の騒音防止協定をほごにする午後10時以降の深夜飛行を実施した。

この日は午後7時以降にオスプレイ2機が米軍普天間飛行場を相次いで離陸。基地周辺で張り番をする記者から情報が伝えられると、本島中北部の記者から次々と飛行の情報が寄せられた。普天間飛行場移設先の名護市の米軍キャンプ・シユワブ上空では旋回などの訓練が実施され、

深夜早朝のオスプレイの運用が従来機より2・3倍に増える見込みの伊江島補助飛行場では午後10時ごろまで、着陸帯で離着陸や旋回訓練が繰り返された。住宅密集地の中にある普天間飛行場に2機が全て戻ったのは10時半に近かった。

同飛行場の騒音防止協定は住民への影響を抑えることを目的に、午後10時～午前6時の飛行や地上での活動は「米国の運用上の所要のために必要と考えられるものに制限される」としている。9月19日に政府が発表したオスプレイ運用に関する安全確保策などの日米合意でも騒音防止協定の順守が明記された。

オスプレイのヘリコプターモードでの飛行も日米合意で原則基地内上空としているが、市街地上空を同モードで飛行しているのが頻繁に目撃されている。結局、政府が胸を張って示した安全策は「運用上必要な場合を除き」などのただし書きによって形骸化され、米軍の自由な活動を許している状況だ。

政府の形を取り繕っただけの対応で何とか沖縄の反発を抑えようとする姿勢は、オスプレイが強行配備された同じ月に沖縄で起きた、米海軍兵2人による県内女性への集団暴行

致傷事件でもみられた。事件を受けた政府の対応は早かった。事件があった10月16日に吉良州司外務副大臣はルース駐日大使に遺憾の意を伝え、ルース大使は捜査に全面協力するとして声明を発表し、3日後にはアンジェレラ在日米軍司令官と共に、日本にいる全ての米軍人を対象にした深夜外出禁止などの再発防止策を発表した。

だが、これらの策はすでに沖縄で同様の重大事件が発生するたびに取られたものだ。今回、県警が米兵容疑者を基地外で逮捕したため、日米地位協定の身柄の引き渡しなどの問題は出てこなかった。しかし、沖縄にとって米兵事件が起これり続けている状況に「問題を起こしているのは地位協定という身分の保証から来ている」(仲井真知事)との思いが強い。

政府は再発防止を徹底するとの姿勢を示しながら、仲井真知事が求める地位協定の抜本的見直しに応じる姿勢をみせず。結局、根本的な問題は解決されていない。

揺らぐ政権 問題置き去りに

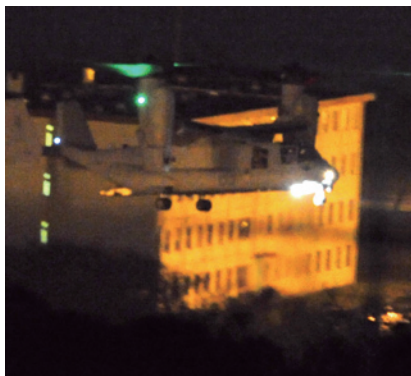
沖縄の過重な基地負担に、より焦点が当たると、長島昭久防衛副大臣は10月18日、オスプレイを7月から先行配備した岩国市の市長に「約2カ月間、岩国に留め置き、負担と不安を与えてしまった。心配をお掛けし、おわびしたい」と謝罪した。

沖縄問題はどのように、どう見ても沖縄への差別があり、沖縄の尊厳や人権が踏みにじられ続けているが、一向に改善されていない。

「衆参722人の国会議員のうち、沖縄の8人が声を大にして訴えても圧倒的多数を占める本土選出の議員が自分の問題として捉えていないから、問題が解決しない」。元県知事の大田昌秀氏はこう批判する。

基地問題の取材で沖縄の要求が聞き入れられない状況に、同じことを強く感じる。政権が揺らぎ、米大統領選後の行方も見えにくい中、問題が置き去りにされることを危惧している。

うちま・けんゆう 2003年入社
社会部などを経て 現在 政治部基地問題担当



オスプレイMV22が普天間飛行場に10月30日午後10時25分に着陸する。騒音を抑制する。琉球新報提供

被災地通信 ⑦

IMF世銀総会 仙台合会

震災体験の語り部として
世界へ教訓の発信を

酒井原雄平（河北新報報道部）

10月9日、10日の2日間、仙台市青葉区のホテルを会場に、日本政府、世界銀行共催の「防災と開発に関する会合」が開かれた。報道部経済班の金融部門担当として取材に当たった。

会合は東京で行われた国際通貨基金（IMF）と世銀の年次総会に合わせた取り組み。40カ国の閣僚、防災関係者ら約320人がパネル討論などを行い、世銀のキム総裁やIMFのラガルド専務理事らが被災した仙台市内を視察した。

世界のVIPが仙台で一室に会すなど、そうそうあることではない。不測の事態への備えも念頭に、取材

記者はペン、カメラ合計5人を事前登録し、当日は計3人を投入した。

正直に言うとう開催前は、そこまで前向きでもなかった。「地震学者ならともかく、各国財界のお偉方が被災地に来て何になるのだろうか。ニュース性のある国際会議とはいえ、被災地にどれだけ影響する話題なのか」と、斜に構えた見方をしていた。

支援国への恩返しにも

しかし取材を進めていくうちに、考えを改めさせられた。キム総裁は「ここで見た被災地の光景を死ぬまで忘れない。東日本大震災で仙台が学んだ教訓を持ち帰り、途上国の防災に生かす」と語った。東北・仙台に求められていたのは、震災体験の語り部としての役割だった。確かに、被害を最小限に食い止める努力の重要性を途上国に伝えることは、被災地にしかできないことだ。

会合が被災地に何をもたらすかわりも、被災地は世界のために何ができるのか、世界は震災から何を学ぶかを書かなければ、と思いついた。

震災直後、石巻市や南三陸町の取材現場で、米兵、イスラエル医療団、カラフルな制服のインド救援隊ら、さまざまな国の支援団と行き合った。生存者を探して懸命にがれきを



各国の首脳が仙台に集まった『防災と開発に関する会合』の開会式 10月9日 河北新報提供

かき分ける彼らの姿は、とても頼もしく見えた。被災の教訓を発信することは、全世界から支援を受けた側が恩返しとして果たすべき責務だろう。震災の話題は東北の田舎が中心であっても、世界に伝えるべきニュースなのだ、今では思う。

負の側面はぼ見せず 残念

ところで、取材現場は面倒が絶えなかった。各国首脳の現地視察では、接近を制限されて会話の内容がさっぱり聞き取れなかったり、事前に指定された撮影位置では背中と後頭部しか写らなかつたり。カメラマンは各社かなり苦労していたようだった。弊紙がラガルド専務理事に接近で

きたのは現場視察中の一度、それも偶然だった。突然のことで通訳もなし。涼しい顔のロイターやブルームバーグの記者を横目に、この機会を逃したらアウトだと、英語に不慣れた脳を必死に振り絞って耳をそばだてた。地方紙記者といえど、国際化と無縁ではいられないと思ひ知らされた。

ひとつ残念だったのは、復興へと歩みを進める日本を強調したがため、震災のマイナスの側面をほとんど見せなかつたことだ。「釜石の奇跡」をはじめ避難の成功例は示されたが、多くの児童と教職員が犠牲となった石巻市大川小の悲劇などは触れられずじまい。現地視察で訪れた仙台市荒浜小でも、津波の爪跡や子どもたちの希望と不安の言葉が当時のまま黒板に残る教室などは素通りされた。

懸命に立ち上がる姿を世界に知ってもらおうのはいい。だがそのために被災地が「頑張っています」と作り笑顔をさせられている気持ちになつた。震災から1年7カ月。復興具合を強調するにはまだ早すぎる。

さかいばら・ゆうへい 2000年入社
大船渡支局などを経て 09年から報道部

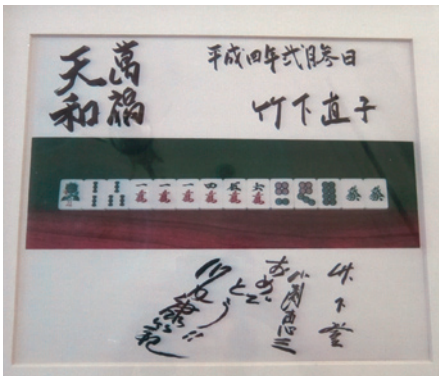
私が会った
あの人

月光仮面は生涯助ッ人

川内康範さん

後藤 謙次

麻雀の役満貫のひとつに「天和(てんほう)」がある。麻雀好きなら誰もが一度はやってみたいと思ふ夢の手役だ。配牌の時点で「親」の和了(上がり)が完成している状態にある。プロでも「一生に一度お目にかかれるかどうか」と言われるほど希少な役だ。そんな珍しい役満貫の達成を記録した写真がある。四つ切りぐらいの大きさのカラー写真とともに卓を囲んだ四人の署名が残る。



“奇跡”を祝福する写真が今も竹下邸に飾られている＝竹下元首相の次女・内藤まろ子さん提供



川内康範さん＝1992年撮影 共同通信社提供

中でも頻度の点でも個性の点でも康範さんは異彩を放つ存在だった。

「天和萬福 平成四年式月参日 竹下直子、竹下登、小淵恵三、おめでとう 川内康範」

天和を和了したのは竹下元首相夫人の直子さんだった。天和も驚きだが、4人の組み合わせは「奇跡」に近い。今となってはいずれも鬼籍に入ってしまったが、写真を眺めると往時の竹下邸の賑わいが昨日のことのように甦ってくる。今も夫人が麻雀に興じた部屋にこの写真が額に入れられて飾ってある。

竹下氏と生涯にわたる師弟関係を結んだ小淵元首相は分かるにしても、川内康範さんがなぜここにいたのか。竹下邸は来る者は拒まず、実に多彩な人たちが出入りをした。

当時の秘書の証言では、多い時は週に2回、少なくとも月に1度は竹下邸を訪ね、私もしばしば康範さんと話し込む間柄になった。

竹下氏と康範さんは誕生日が同じ2月26日で、恒例となった竹下邸での誕生会では竹下氏とともに康範さんが床の間を背に座った。康範さんが世に送り出した「月光仮面」「伊勢佐木町ブルース」「まんが日本昔ばなし」などなど、数々の作品はいつも時代を写す鏡のように輝いた。本人の著書に記した肩書きだけでも作詞家、作家、脚本家、政治評論家の4つ。とりわけ評論家を越えた政治に対する熱い思いをいつも竹下氏にぶつけていた。竹下氏も時おり、「国土も大変だわなあ」と苦笑いする場面もあったが、よく耳を傾けていた。

2000年に小淵、竹下両氏が相次いで他界した後も時おり直子夫人を訪ねる康範さんを見かけた。そんな康範さんの最晩年に騒動が持ち上がった。2007年のいわゆる「おふくろさん騒動」だ。歌手の森進一さんが康範さん作詞の「おふくろさん」の歌詞を勝手に改変したとして康範さんが森さんに「待った」を掛

けたのである。テレビのワイドショーは連日、この問題を大きく取り上げた。その頃だ。突然、直子夫人から私の携帯電話に連絡が入った。

「康範先生に早く事態を決着させるように後藤さんからも言ってくださいよ」

早速、康範さんと連絡を取った。しかし、取り付く島がない。野中広務元官房長官も動くがらちが明かない。そのまま事態は動かず、翌年4月、康範さんは88年の生涯を閉じた。死の直前まで元気で、「月光仮面」の初放送から満50年の2008年を目指して同名の映画作りに意欲を見せていた。

私が共同通信を辞めてTBSのキャスターに転じた際、受付に康範さんから色紙が届いた。その後励ましの「檄文」を何度ももらった。戒名は「生涯助ッ人」。竹下氏の生家にもその色紙が飾られている。義理と人情を何よりも大切にした破天荒な快男児。その康範さんをいつも快く受け入れた竹下氏。そんな大らかな時代は遙か昔の「おとぎ話」のようだ。

ごとう・けんじ 元共同通信編集局長 現在 客員論説委員

朝鮮半島取材40余年

被爆者問題で日韓の溝学ぶ
心痛む北朝鮮の笑わぬ子

2000年6月15日、ソウル・ロッテホテルの特設プレスセンター。

時計は午前零時を回ったが、予定された南北首脳共同宣言の発表は大幅に遅れ、約千人の内外報道陣に焦りが募っていた。その時、平壤直結の大型スクリーンに「宣言合意」の字幕が浮かび、次いで金大中大統領と金正日総書記が笑みを浮かべ、手をつないで会談場から歩み出す姿が映った。熱気こもるセンターに拍手が鳴り響いた。半世紀を超す朝鮮半島の分断に新たな章を画す歴史的な瞬間だった。

その光景を見ながら、筆者は「これでいいんだ」と胸中でつぶやいた。が、その一方で、「惜しいことをしたな」という気持ちを消せなかった。

実は、首脳会談の実現は発表前に知った。が、民族分断の傷を癒し、明日を開くのは民族自身であり、周辺国は決して干渉してはならない。まして朝鮮半島を植民地化し、自らの敗戦によってその地に長い分断をもたらした日本の記者として、民族の和解・統一への歩みを阻んではならないという自戒が、世紀の特ダネを目の前にした記者根性を抑えて、この日を迎えたのだった。

筆者は、84年に全斗煥大統領が韓国元首として初の公式訪問をして出された日韓共同声明をスクープしたのだが、思わぬ副作用もあり、その苦い経験もブレイキになった。

それは冷戦時代、在韓被爆者の取材を通じて朝鮮問題に入門した筆者

が、新しい覚悟を刻んだ日ともなった。

小田川 興



● 忘れ得ぬ掌の温もり

1968年春、朝日新聞の「特派員の目」に岡井輝雄ソウル支局長の韓国人被爆者の実態リポートが載った。それを見た「尼崎市の中学生」から「被爆者のために」とよれよれの五百円札が同封された手紙が駐神戸韓国領事館に届いた。和歌山支局から神戸に転勤したばかりの筆者に、韓国領事と旧知の和歌山県立図書館副館長から一報が入り、それが筆者を朝鮮問題に導いた。夕刊社会面の記事が相次ぐカンパを誘い、筆者は韓国人被爆者の直接取材を決意して秦正流大阪編集局長に直訴。地

方記者の海外取材は夢だった当時、秦さんがロシア専門家でも外報部出身だったことが幸いしてOKに。

梅雨に入った韓国のソウルから釜山、そして馬山まで、韓国原爆被害者援護協会（現、韓国原爆被害者協会）の幹部の案内で回った。日韓請求権協定で植民地被害は「清算済み」とされ、その一方で日本の情報が遮断されていたため、医師も被爆者も原爆後遺症について知らないという、日本とはあまりに異なる状況に愕然とした。韓国政府は朝鮮戦争の犠牲者救済に追われ、植民地被害者に手が回らないという事情もあった。

日韓国交正常化からわずか3年だが、被爆から23年も経って訪れた若造の記者が「いまごろ何のために来たのか」と怒鳴られるのは覚悟の上だった。だが、原爆後遺症と貧困、差別にあえぐ被爆者たちは「どうか早く私たちを助けてくれるよう、日本政府に伝えてほしい」と訴え、私の手を握る被爆者も多かった。その掌の温もりはいまも忘れない。しかしついに、釜山で会った女性被爆者は記者の顔をにらみ、こう吐き出した。「私ら一番憎いのは、天皇ですよ」。韓国で当時、日本の平和憲法への転換は一般には知られず、天皇は依然として最高権力者だった。こ

の一件は日韓の歴史問題の溝を深く学ぶ契機になった。

●大平外相の「幻の特別立法」

そこから在韓被爆者の実態取材にとどまることができず、問題解決への努力を自分に課した。1972年、つてをたどって香川県観音寺市の大平正芳外相（当時）の自宅（大平文庫）を訪れて直訴した。

大平さんはなんと開口一番、「韓国人だけでない。中国人被爆者もいるので、外国人被爆者特別立法をつくって救済する必要がある」と。剛速球が飛んで来た。筆者は大阪社会部から整理部に移ったあとで、取材・執筆はご法度だったが、特ダネだ、構うものか。高松支局に飛び込み、整理部のデスクに電話し、記事と写真を送稿。翌朝の総合3面トップを飾った。規則にうるさい今では考えられない良き時代だった。

この外相発言をフォローすべく、1カ月後に外務省北東アジア課に行き、担当者に聞いた。「大臣から指示があったでしょう」「いいえ、何も」と表情も変えない。繰り返したが、同じ。そこで考えた。後援会を通じての面談だから、外相のリップサービスだったのか。愚鈍にも、「立法は国会の仕事。大臣の発言を言質

に議員を動かすべきだったのか」と気づいたのは数年後。残念ながら大平さん亡き今、「幻の特別立法」となった。

だが今年、日中国交40周年記念番組を見て思い直した。大蔵官僚だった大平さんは戦前、中国で仕事をした経験から、日本がアジアのために可能なことを最大限行うことが日本の生存と安全に通じる大道だ、と語っていたという。大平さんは本気で外国人被爆者を救おうとしていたと信じる。となると、外務省は植民地被害は清算済みとの日韓合意を固守するため、担当者が嘘をついた可能性もある。当方の不明を恥じる。

取材した数多くの在韓被爆者は日本への恨みを抱いたまま逝った。そのなかで、韓国人被爆者運動をリードした辛泳沫さん（99年没）はこう嘆いた。「私たちの民族が統一され、力を持たないと、真の救済は勝ち取れないと思う」

日本政府に対する在韓被爆者援護の訴えは、日本の市民団体の支援もあって徐々に進展してきたが、まだ医療費の差別待遇などは残る。近年は北朝鮮の被爆者の実態も明らかになり、辛さんの言葉の重みは増している。

その北朝鮮の取材では、植民地支

配の痕跡に直面した。

●国境の要塞跡に朝日新聞紙面

1999年、「1000人の20世紀」

シリーズで故金日成主席の足跡をたどり、平壤から白頭山、中朝国境の普天堡へ。彼の率いる部隊が1937年、日本に対して反撃し、「英雄」になったという前線の日の丸要塞跡だ。パルチザン部隊の襲撃による弾痕が生々しく保存される駐在所跡に入るなり、案内員が天井を指差した。見上げると、雨漏り防止に古新聞が貼ってある。題字を見れば、なんと「朝日新聞朝鮮西北版」だ。黄ばんだ「西部朝日」が50余年の日朝断絶の時間を告げているような気がした。ただ、あとで疑問も浮かんだ。当時の紙面が何十年もつものだろうか、と。朝日記者へ、レトロ調の演出だったかもしれない。

脱北少年の顔を今も思いだす。まる3日、一緒にいたのに一度も笑わなかった、その暗い顔を。1998年、中国東北部から国境沿いに北朝鮮情勢を取材のため、韓国の人道支援団体に同行した。中朝貿易の窓口である吉林省延辺朝鮮族自治州の図們で会ったのは顔が真っ黒にすすけた少年。州都・延吉の市場には脱北してきた何人もの子どもたちがもら

い食いして命をつないでいた。少年は北朝鮮が自然災害で食糧難に陥るなか、家族は餓死し、一人で豆満江を渡ってきたという。団体と一緒に白頭山に行き、ボランティアの学生のゲームの輪にもいるのだが、最後まで笑顔はなかった。

日本では敗戦後、上野の戦災孤児たちの悲惨さは語り草だが、北朝鮮ではそれが現実だった。分断と朝鮮戦争、そして冷戦の過酷な時代を経て独裁体制下の北朝鮮社会。日朝関係は拉致問題や核問題で停滞するが、日本が歴史の深いかかわりを持つ隣国と世界で唯一、国交がないという状態は打開されなければならぬ。北朝鮮の体制の責任は大きい、あの少年に象徴される北の子どもたちが笑みを浮かべる日が早く来てほしいと祈る。彼らを救うことは東アジアの未来を創ることにつながるのではないか。

おだがわ こう 1942年生まれ
65年朝日新聞社入社 ソウル支局長
編集委員 韓国高麗大東北アジア経済経営研究所顧問を経て 聖学院大総合研究所特命教授 早稲田大日韓未来構築フォーラムを主宰 在韓被爆者問題市民会議代表 著書に『38度線・非武装地帯をあるく』『被爆韓国人』（編訳）『北朝鮮問題をどう解くか』（編著）など

3D テレビドキュメンタリー
「東日本大震災」「疾走！相馬野馬追」東日本大震災を越えて」

(10・9)

84年に発足した「NHKメディアテクノロジー」社が、20年余りにわたって蓄積した3D撮影の技術で「日本のない被写体」にふりむけて作成した、初のドキュメンタリーと聞いた。立体感が自然で、見終わった後も目に不快な疲労感はなく残らなかった。

1本目は気仙沼など7地区の1カ月後の光景だ。陸前高田市の、「奇跡の1本松」の姿に息をのむ。大災害と原発事故で生活のメドもつかない市民も大勢のこっている南相馬市の人たちが、今年の夏、力をふり絞って復活させたのが「相馬野馬追」だ。代々、法螺貝吹きの役をつとめてきた小幡家の姉妹（9歳と6歳）が鉢巻き鎧姿で法螺貝を吹き鳴らして出陣する地元の騎馬武者たちを祝福したあと、自らも馬にまたがる。2人が背筋をのびし凜として馬を御してすすむ姿は、1000年を超え



ふるさとへの誇りと愛着

という。もっとも、プロデューサーをつとめた智片通博さんによると、「集まってくれたのは日頃から集会所に出入りして福島から届く地元紙をむさぼるように読んでいる50人ほどの常連の方々にとどまっ

た」とのこと。東京からバスで5時間半。列車は福島駅までしか復旧していないいうえ、原発から20キロ圏内は昼間しか立ち入れず電気も止まったままだ。陸の孤島化した故郷から切りはなされ、地元を描いた番組の上映会にすら出てくる気になれない大半の避難民の心根を想像すると、胸がつかまる。

NHK出身 鈴木 博信

テロリズムとケバブ

ケバブとは、中東一帯で食べられている肉の串焼きのことだ。羊や鶏、牛などの肉を塩とコショウで味付けし、鉄の串に刺して炭火で焼く。ほどよく脂が落ちて、香ばしい。昨年の初め、政権崩壊直前のカイロでは、ケバブ屋ぐらいいしか営業しておらず、連日食べるはめになった。

映画は、独裁政権下での庶民の悲哀を描いたコメディだ。子どもの転校手続きのために役所を訪れながらも、たらいまわしにされ、いらつく主人公の男。ひよんなことから銃を持つてたてこもることになった。治安部隊が包囲するなか、男が要求したのは、ケバブだった。

硬直した官僚主義、働かない役人。昨年の民衆蜂起の底流には、こうした体質への不満もあった。加えて、低迷した雇用。就職できない若者たちが町にあふれる一方で、政権の周辺に富が集中。人々の怒りは爆発寸前だった。

映画では、ケバブではなく、ケンタッキーで我慢しろという内務省に人質も反発。お互いの



大使を説く文化背景(10.20)の映画(10.20)が映した(10.20)の館が映した(10.20)の館が映した(10.20)

中東で広く人気を集める映画を生み出したエジプト。さまざまな意見を受け入れられる、おらかな国であってほしいと願う。
NHK前カイロ特派員
藤井 俊宏

独裁政権下での庶民の悲哀

身の上話をするなかで、苦勞や困難を共有していることに気付き、権力に対して一致して対決しようという意識が生まれた。政権崩壊までの18日間、カイロのタハリール広場でも同様の光景が見られた。かつて政府の車に幼い息子をひき殺された父親は、何の謝罪も補償もなかったと訴え、雑貨屋を営む別の男性は「営業許可を取り消すぞ」と金をせびる役人への怒りをぶつけた。一人ひとりが個人的な経験をもとにタハリールに集まり、連帯を強めていた。その後、ムスリム同胞団出身の大統領が誕生、イスラム勢力の台頭が際立つ。こうしたなかで、この映画の主人公を演じたアーデル・イマームは、出演した映画でイスラム教を侮辱した罪で3カ月の禁固刑を言い渡された。上訴審で判決は覆ったが、イスラム勢力が権力の座につくことで、表現の世界での規制が強まるのではないかと大きく報じられた。

マイBOOK マイPR

政治家の胸中 肉声でたどる政治史の現場



老川 祥一
（読売新聞グループ本社取締役最高顧問）
歴代首相の肉声に迫る 読売新聞政治部に1970年に配属されて以来、実際

に見聞きした歴代首相らの肉声や取材秘話を通じて戦後政治史を総括しました。佐藤政権以降の「三角大福中」による権力闘争、「安竹宮」の時代、五年体制の崩壊、そして民主党政権に至るまでを書き下ろしたものです。混迷を深める民主党政権の課題なども指摘しています。政治家のあるべき姿や政治を考える一助になれば幸いです。若い記者にもぜひ読んでいただきたいと思えます。

（藤原書店 2940円）

大統領でたどるアメリカの歴史



（時事通信解説委員長）
米大統領のリーダーシップに焦点 4年に1度の米大統領選挙の年は、アメリカを

力を考える良いチャンス。プッシュ（共

和）とゴア（民主）の対決になった2000年大統領選の大混乱を取材して、選挙の仕組みを不思議に思い、先の展開を予測するために憲法も詳しく読んだ。その経験を生かしつつ、建国から南北戦争、大恐慌、そしてレーガンやオバマの時代までを歴代大統領のリーダーシップに焦点を合わせてたどってみたい。そんな思いで書き綴った若者向けの本です。

（岩波ジュニア新書 924円）

ゼロからの古代史事典



壺岐 一郎
（九州朝日放送出身）
日本古代史通史 古代史研究 者・藤田友治 論急死を受けて 伊ヶ崎淑彦との

主編著刊行。岩波古代史に対するカウンター市民派史学（ひとり考古学プロ）14人執筆。関東在住2人、関西在住12人、北部九州・長期調査経験は2人。巨大古墳と岡山から北部九州の広大山城20基以上を並列的にとらえた。紫式部や西園寺公望が批判した日本書紀を徹底批判、前3世紀の徐福集団渡来、6世紀の倭国、扶桑国を正面から肯定した、通史事典。
（ミネルヴァ書房 3990円）

女性記者―論説委員室の片隅で



千野 境子（産経新聞出身）
元論説委員長45年間の記者人生 前半「私の記者人生」は書き下ろしました。

46年前、大学の就職課で「男子に限る」新聞社ばかりの中、唯一見つけた「女子も可」の産経新聞との運命的？出会いに始まり今日まで。丸谷才一氏の『女ざかり』よろしく、知られざる論説委員室の紹介や論説委員長になって間もない歴史教科書をめぐる朝日新聞社説との論戦の舞台裏も、ちよっぴり本邦初公開です。後半「論説委員の仕事」は過去7年ほどの一面コラム「遠い響近い声」などから43本を再録しています。（産経新聞出版 1575円）

田中角栄―戦後日本の悲しき自画像



早野 透（朝日新聞出身）
取材メモ再現 角栄一代記 田中角栄が世を去って20年、いつまでも懐かしさが去らない。番記者だった私の取材メモを再現して、角栄一代記を書いた。書き始めたなら、角栄が勝手に動き始めて、新書としては厚すぎる本になってしまった。角栄は喜劇だったのか悲劇だったのか、私は悲劇だったように感じている。

「番記者」というと政治家とマスコミの癒着のように思われている昨今の風潮に一矢報いたく、「角栄本」をまた一冊付け加えた。
（中公新書 987円）

寄贈書



東京新聞編集局編
社会、科学、政治、経済の4部を中核にした組織横断型の原発取材班と特報部など

ジャーナリズム精神なる果敢

この究極の問いに対して直接的な要因だけでなく、政府を頂点とした権力側の隠ぺい体質や機能不全など、この国の根源的な問題も1本1本のスクープをもって、告発している。中日新聞社の名古屋、東京、東海、北陸の4本社の編集局が総力を結集した原発報道は「果敢なるジャーナリズム精神」を評価され、今年の菊池寛賞を受賞した。本書はその集大成でもある。
（東京新聞出版部 1890円）
菅沼 堅吾 東京新聞編集局長

■ 会議報告 ■

第337回会報委員会(10・10 大会議室)

11月号の編集について協議したほか、12月号の年末企画「私のお薦め本」と明年1月号の「新春随想」の執筆候補者を決定した。

出席 会田委員長、中村、高橋、守田、小西、佐塚、石川、萩谷、牧の各委員。

第423回企画委員会(10・18 宴会場)

9月に行った民主、自民両党の党首選討論会について意見を交わし、解散総選挙の際に行う党首討論会について協議、次回も引き続き検討することにした。

出席 小孫委員長、星、倉重、坂東、橋本、脇、実、宮田、高畑、杉田、川上、神志名、川戸、杉尾、小栗、萬、泉、村田の各委員。

第422回会員資格委員会

(10・18 小会議室)

11月1日付の会員入退会を審議し、理事会に答申した。

出席 小田委員長、中島、玉井、荒木、青木の各委員。

第111回総務委員会(10・29 小会議室)

9階貸室料の改定、2013年度日本記者クラブ賞の実施、第18期日本記者クラブ賞推薦委員会委員の委

嘱、アジア太平洋プレスクラブ協会への加盟について協議した。

出席 岸本委員長、小田、会田、山田、粕谷、箕輪、北澤、鳥居、木村の各委員、吉田理事長、飯塚、石田の両副理事長、中井専務理事。

第524回理事会(10・29 Cホール)

一、9階貸室料の改定に関する件
第201回施設運営委員会(9・

20) から具申のあった9階会議室の貸室料金改定案を了承し、2013年4月から5%値上げすることを決定した。改定は17年ぶり。クラブの収入の中心である会費収入の減少が続いている。施設を使う会員に応分の負担をお願いすることで、収入減少を少しでも和らげ、会員全体の負担増を避けることにつながることを目的とした。

二、2013年度日本記者クラブ賞の実施に関する件

日本記者クラブ賞規約にもとづき、2013年度の日本記者クラブ賞と特別賞を実施することを承認した。三、第18期日本記者クラブ賞推薦委員会委員の委嘱に関する件

日本記者クラブ賞規約と内規にもとづき、別掲7氏に第18期日本記者クラブ賞推薦委員会委員を委嘱することを決定した。

四、アジア太平洋プレスクラブ協会への加盟に関する件

香港の外国特派員クラブ、オーストラリアのナショナルプレスクラブ、シンガポールのプレスクラブの3者の呼びかけで設立される「アジア太平洋プレスクラブ協会(APPC)」に加盟する方針を決めた。中井専務理事が3者から届いた招請状と設立の趣旨、その後の経緯を説明した。これまでクラブは海外のプレスクラブと姉妹提携を結んでいるが、国際的な団体に加盟するのは初めてとなる。

出席 吉田理事長、飯塚、石田の両副理事長、中井専務理事、岸本、小田、会田、谷、佐藤、山田、関本、結城、栃藪、前田、神足、桶田、粕谷、箕輪、北澤、伊奈、鳥居、木村の各理事、松岡、佐藤の両監事。

第18期日本記者クラブ賞推薦委員会

- 小島 明(日本経済新聞出身) 再任
- 住川 治人(朝日新聞出身) 再任
- 丸尾 寿一(フジテレビ出身) 再任
- 五十嵐公利(NHK出身) 新任
- 上村 武志(読売新聞出身) 新任
- 橋場 義之(毎日新聞出身) 新任
- 春名 幹男(共同通信出身) 新任

日中関係

HPに「会見記録」満載です

国交回復40周年の今年、日中関係は尖閣諸島問題で大きく揺れました。クラブのウェブサイトの「会見記録」ページには、40年の歴史が重なる要人の会見や、その時々研究会の記録が約20本掲載されています。主なゲストをリストアップすると――。

- 岡崎嘉平(太日中書貿易事務所代表「対中国政策の転換を望む」(70・12・23))
- 竹入義勝(公明党委員長「一つの中国が基本」(71・7・20))
- 藤山愛一郎(日中国交回復促進議員連盟会長「日中国交回復への道」(71・3・19))
- 小川平四郎(初代駐中国大使「友好維持のため基礎作りに専念」(73・2・22))
- 鄧小平(中国副首相「未来に目を向けた友好関係を」(78・10・25))
- 趙紫陽(中国國務院総理(82・6・2))
- 胡耀邦(中国共産党総書記(83・11・26))
- 彭真(中国全国人民代表大會常務委員会委員長(85・4・25))
- 胡錦濤(中国国家副主席(98・4・24))
- 王毅(駐日中国大使(04・10・18))
- 阿南惟茂(前駐中国大使「『社会主義市場経済』の光と影」(07・3・16))
- 宮本雄二(前駐中国大使「2008年の日中共同声明の意義」(10・10・15))
- 丹羽宇一郎(新中国大使(10・7・26))

原発と自然エネルギー 北欧に取材団 高レベル放射性廃棄物処分場の現場も

1 月

日本記者クラブは、来年1月、原子力発電と再生可能エネルギーをテーマにフィンランドとデンマークに海外取材団を送る。海外への取材団派遣はクラブの主要なプレス企画のひとつ。今年は1月、米ハワイの米軍基地を取材し、米太平洋軍司令官らにインタビューした。全国の新聞・放送・通信14社の記者14人が参加し、さまざまな形で報道された。

フィンランド・デンマーク取材団の案内・申し込み書類は法人会員社の編集・報道局長あてに送ったので、多くの社が参加してほしい。

原発と再生可能エネルギー フィンランド・デンマーク

第10回海外取材団

2013年1月13日～21日

主な取材先

【フィンランド】 オルキオ原子力発電所、高レベル放射性廃棄物最終処分場（オンカロ）、バイオマス燃料生産工場

【デンマーク】 ロラン島の再生可能エネルギー、陸・海上風力発電所

福島第一原発事故後、日本の原発・エネルギー政策は論戦が続く。北欧の取り組みへの関心は高い。フィンランドでは、オルキオ島の原発と高レベル放射性廃棄物の地下最終処分場オンカロを取材する。映画「100,000年後の安全」で知られるオンカロの建設現場にも入る。バイオマス燃料の工場も訪れる。カティネン首相のインタビューを申し込んでいる。

デンマークでは、風力を軸に自然エネルギーで電力を100%自給し、再生可能エネルギーのモデル社会とされるロラン島の取材が中心になる。リデガー気候エネルギー建設相ら閣僚取材も調整している。

各社が個別に取材を申し込んでも、対応に時間や手間がかかるケースが外国ではあるようだ。日本記者クラブが窓口となれば取材される側も協力しやすい。そうした国外取材の機会を全国の記者が持つよう支援することもクラブの役割であり、今回の海外取材団を企画した。

新設のアジア太平洋プレスクラブ協会に参加へ

理事会（10月29日）は、11月に設立が予定されるアジア太平洋プレスクラブ協会（APPC）に日本記者クラブが参加する方針を決めた。

オーストラリア・ナショナルプレスクラブ、香港外国特派員クラブ、シンガポール・プレスクラブの3者が発起人となりアジア太平洋各国のプレスクラブに参加を呼びかけている。協会の目的は、報道の自由、開

クラブ賞 候補の推薦 受付中

2013年度の日本記者クラブ賞・特別賞の選考が始まった。第1段階は候補の推薦。プレス会員には推薦の手續きや案内をこの会報に同封した。会員だけが推薦権を持つ仕組みだ。来年1月末に締め切る。

第2段階は、推薦された候補を推薦委員会が審査し、絞り込む。推薦委員は個人D会員7人で構成する。今年はそのうち4人が交代し、新しい委員が10月の理事会で決まった（20頁参照）。第3段階は推薦委から適格な候補の具申を受けた選考委員会による審査。選考委は原則として総務委員会（15人）で構成する。選考委の答申に基づき、理事会が受賞者

かれた政府、報道人の保護、高い倫理水準を支持すること。協会に加盟する各クラブの会員同士の交流も期待される。

クラブ定款はクラブの事業のひとつに「諸外国のジャーナリスト、報道団体との連絡、交流をはかる」をあげている。すでに、米、韓、豪、フィリピンのプレスクラブとは「姉妹クラブ」の提携関係にある。

（専務理事・事務局長 中井良則）

を決定するのが最後の第4段階となる。

クラブ会員または法人会員社に属する個人を対象とする日本記者クラブ賞は毎年、ジャーナリズムの信用を高めた記者が選ばれている。

今年から、会員以外のジャーナリストやジャーナリズム活動を対象とする日本記者クラブ賞特別賞を始めた。東京電力福島第一原発の水素爆発の瞬間を唯一、撮影し報道した福島中央テレビ報道制作局と、手書きの壁新聞を発行した石巻日日新聞に贈った。大震災報道を代表するジャーナリズムを顕彰することができた。候補が出そろわないと審査も始まらない。クラブ賞と特別賞にふさわしい候補を幅広く推薦してほしい。

情報発信

クラブ施設では会員による各種の会合が行われています。企業や大使館などの賛助会員も記者発表の場としてクラブを利用しています。

● ずっと「優駿」編集部。「福田喜久男」と酒を飲む会

8月4日に亡くなった福田喜久男「優駿」元編集長を偲ぶ会が開かれた。日本中央競馬会関係者や友人ら約90人が集い、名物編集長の思い出を語った。(10. 2 10階ホール)

● 西日本新聞—琉球新報の相互援助協定調印式

西日本新聞社と琉球新報社が緊急時の新聞発行に関する相互援助協定を締結。その協定調印式が行われた。地震などの大災害やシステム障害など緊急時に新聞発行が困難になった時に、印刷・輸送を支援するのが柱になっている。西日本新聞の川崎隆生社長と琉球新報の富田詢一社長が協定書を交換した。(10. 4 ゴールドルーム)

● 東日本大震災・子ども支援を考える円卓会議

東日本大震災子ども未来基金(高成田享理事長 www.mirai.kikin.com)が企画。東日本大震災の被災地の子どものための支援策を考える円卓会議を開いた。被災地の教育関係者、NPO、ジャーナリストら約60人が参加した。(10. 13 宴会場)

● 47CLUB「究極のおせち」商品発表会

47CLUB(よんななクラブ <http://www.47club.jp/>)は47都道府県の地方新聞社が地元の逸品を集めて販売する通販サイト。そのおせち商品の発表会が開催された。生産者や生産過程が紹介され、試食会も行われた。(10. 22 宴会場)

● 国際アービック赤いバラ大賞特別賞贈賞式

国際アービック協会(小川津根子代表)はユニークな文化・芸術活動を行った個人ならびに団体に「赤いバラ大賞」を贈っている。その特別賞に慶大医学部、薬学部、看護医療学部の学生ら120人を選んだ。学生たちは震災直後から被災地で活動する医療関係者に取材し、記録集「私たちが災害時にできること」をまとめた。贈賞式では、学生らによる報告会も行われた。(10. 22 大会議室)

● 下野新聞と山陰放送に日本医学ジャーナリスト協会賞大賞 表彰式・シンポジウム

日本医学ジャーナリスト協会(会長・水巻中正国際医療福祉大学大学院教授)は発足25周年を記念して優れた医学・医療分野の報道作品を顕彰する「日本医学ジャーナリスト協会賞」を創設した。第1回大賞に在宅医療の姿や高齢者の生き方を追った下野新聞社の連載企画「終章を生きる 2025年超高齢社会」と、筋萎縮性側索硬化症(ALS)と闘う先輩記者を記録した山陰放送のドキュメンタリー「生きることを選んで」が選ばれた。(10. 23 10階ホール)

新しいOB会員



くまむら たけゆき
▼熊村 剛幸

1970年日本経済新聞入社。ジャカルタ特派員、ワシントン支局長、国際部長、米州編集総局長などを経て、テレビ東京へ。経営戦略局長、常務取締役など。現在、テクノマックス相談役。

■ 新聞30年、テレビ10年のマスコミ人生40余年。年を重ねるにつれ、知りたいことが増えてきた。初心に戻って、再出発したい。



ながさわ たかあき
▼長澤 孝昭

1974年時事通信入社。外国経済部次長、商品経済部部長、編集局総務兼水産部長兼解説委員、時事総合研究所嘱託研究員など。

■ フリーになった。データタイムホームレス兼ノマドワーカーにも「行き先」が必要だ。コーヒーショップ、スポーツクラブ、それに当クラブ。どこを本場の拠点にできるか、自分との新たな格闘が始まった。



にのみや ふみひこ
▼二宮 文彦

1969年NHK入局。NHKスペシャル編成局編成副部長、教養番組部長、編成局担当局長などを経て、放送文化研究所所長、NHKエンタープライズ常務。現在、東京国際大学客員教授。

■ “今、日本から見た世界の風景が変わる”、歴史的な地殻変動の期。次の世代に何を伝え、語るか、改めて研鑽したく思っております。

野本俊輔会員が初優勝 秋のゴルフ会(10. 30)

第98回大会は磯子カンツリクラブで開催されました。当日は「日刊アマゴルフ全日本レディースゴルフ選手権」の決勝戦会場となっていたため、コースも難しいセッティングに。我々が女子用のロッカー室と風呂を使用するという珍しい体験もしました。



難関を制したのは野本俊輔特別賛助会員(写真=ネット76)。「3.11で自宅が傾き狭い家で避難生活中です。体質も変わり健康のために新たな気持ちで再挑戦しています。念願の副賞ノルウェー産サーモンを獲得し、うれしいです」と優勝スピーチ。次回は来年春に開催予定です。

ゴルフ会幹事 日本プレスセンター 柿原 健

● 元クラブ総務部長 佐藤嘉男さんが死去

1986年から2年間、事務局総務部長を務めた佐藤嘉男さん(72歳)が、10月27日脳腫瘍のため死去されました。日本新聞協会時代は2年間会報委員を、(株)日本プレスセンター専務取締役就任後は7年間理事を務めるなど、クラブ運営を長く支えてくださいました。心からご冥福をお祈りいたします。

バー、レストラン、宴会

予約電話 和食 3503-2723 洋食 3503-2766

吉富カクテル パナマ

ラムとカカオリキュールに生クリームをシェイクしたカクテルです。(630円)

和食 霜月懐石 11/30まで

先付・柿白和え 前菜・穴子小袖巻きほか お椀・清汁仕立て 造り・鮪など3点盛り 焼物・牛ヒレステーキ 煮物・海老芋 鴨治部煮 蟹雑炊 季節の果物 グラス冷酒付き (5,250円)

ふぐコース 11/19～3/1

ふぐ皮ボン酢和え ふぐ刺し 鯛塩焼き ふぐ唐揚げ ふぐ鍋 ふぐ雑炊 アイスクリーム (5,775円)

事前予約をお願いします。(板長 大井由光)

洋食 豪華冬コース 12/22まで

生ズワイ蟹とハーブのチーズグラタン、真鱈のコンソメスープ仕立て、鹿背肉のソテー ポワブレードソース、チョコレートナッツサンデー、パン、コーヒー (4,000円)

ランチ、ディナーとも利用できます。

(シェフ・黒須修一)

クラブで忘年会・新年会 11/19～2/2

お一人3,000円のお得なパーティープランです(部屋代・飲み物代別)。料理は洋食8品にお寿司、そばがつきます。1,300円プラスして2時間の飲み放題にもできます。お酒の持ち込みは無料です。10人から40人までお受けします。

お問い合わせ・申し込みは3503-2724へ。

会員社ホール イベント情報

◆日経ホール

米ソノス・ハンドベル・アンサンブル クリスマスコンサート 12/21 18時半開演 (3,500円)

問い合わせ 03-3943-7066

<http://www.nikkei-hall.com/>

◆サントリーホール

クリスマスオルガンコンサート2012 バロック・ダンスへの誘い オルガン：高橋博子、ダンス：市瀬陽子 12/23 16時開演 (3,500円～5,000円)

問い合わせ：0570-55-0017

<http://suntory.jp/HALL/>

◆王子ホール

英アカペラグループ、ヴォーチェス・エイト クリスマスコンサート

12/21 19時開演 (6,000円)

問い合わせ：03-3567-9990 <http://www.ojihall.jp/>

クラブの電話 ダイヤルイン

| | |
|---------------|-------------------|
| 和食レストラン (9階) | 会員事務 |
| 3503-2723 | 3503-2727 |
| 洋食レストラン (10階) | 経 理 |
| 3503-2766 | 3503-2728 |
| 貸室予約、宴会打ち合わせ | クラブ行事への申し込み |
| 3503-2724 | 3503-2722 |
| 受 付 | 会見申し込みアドレス |
| 3503-2721 | kaiken@jnpc.or.jp |

会報委員会

委員長=会田弘継

委 員=石川荘太郎 大寺廣幸 小西美和子
佐塚正樹 高橋 茂 中村史郎 萩谷 順
牧 久 森嶋幹夫 守田 靖

事務局=長谷川和子 本庄五月

(電 話 03-3503-2752 FAX 03-3503-7271)

新しいクラブタイです

記者会見したゲストにお贈りしているネクタイに新たに2本(写真)が加わりました。銀座和光特製のクラブタイはこれで5種類になります。ご希望の方に7,000円で販売しています。お土産や贈り物にご利用ください。受付に展示してあります。



●法人会員代表変更

山形新聞社

寒河江浩二・代表取締役社長(旧・黒澤洋介)

福島民報社

高橋雅行・代表取締役社長(旧・渡部世一)

訃報

岸田純之助会員(朝日新聞出身 92歳)が9月25日肺炎のため、寺尾俊彦会員(特別賛助会員・日本産婦人科医会会長 76歳)が10月21日がんのため、鷹栖丈治会員(日本経済新聞出身 62歳)が同25日肺がんのため死去されました。謹んでご冥福をお祈りいたします。

●会員現況

法人会員 126社 基本会員 735人
個人会員 1,435人 法人・個人賛助会員 66社
160人 特別賛助会員 88人 名誉・功労会員 12人
学生会員 54人 計 192社 2,484人

訂正 10月号のフロント写真の撮影者・小山謙太郎記者の所属が「朝日新聞中国総局」とあるのは、「広州支局」の誤りでした。訂正します。

HP <http://www.jnpc.or.jp/>

NEW! 10月のアップロード

■会見詳録

保阪正康ノンフィクション作家「昭和史からみた現代 東日本大震災後の日本を問う」(8.31)

豊田正和日本エネルギー経済研究所理事長「日本のエネルギー・ミックス見直し 課題と対応」(9.27)

■会員ジャーナル 私の取材余話

田中信義元NHK記者「私とベトナム⑥ シハヌークの笑顔」

今後の行事予定(11/2 現在)

11月14日(水) 14:00～15:30 10階ホール
著者と語る『歴史物語 ミャンマー』 山口洋一元ミャンマー大使

11月19日(月) 15:00～16:30 10階ホール
研究会「領土問題」③ 北方領土 石郷岡建 日本大学教授

11月21日(水) 12:00～14:00 10階ホール
ワドワ・新駐日インド大使 昼食会

ホームページの「会見カレンダー」で、日時の変更なども含め、最新のクラブ行事をお知らせしています。参加申し込みもカレンダーからできます。

写真回廊

撮影 仲辻 史泰

(なかつじ・ふみやす
時事通信大阪支社編集部)



娘を抱きしめて 阪神タイガース・金本知憲外野手の引退セレモニー 10・9 甲子園球場

● 鉄人。パパ

ファミリーな、あまりにもファミリーなショットである。

「トラのアニキ」には、例えば、髭面の清原が手渡す花束のように、ワイルドなシーンが似合うと、皆が思う。ご本人も、引退試合の後、贈られた花束に囲まれ、「花屋ができそうだけど、オレには花束は似合わない、な」と言った。

1492試合連続フル出場の世界記録。後頭部に死球を受けても試合続行。左手首骨折のまま、右手一本でヒットを放つ。鉄人伝説を、次々と作った。「ここまでやるとは想定外だった」。ドラフト4位で広島カープ入りを決めた元スカウトの述懐だ。

金本に、想定外の進化を遂げさせたのは地道な練習である。誰よりも早く球場に入ってバットを握り、最後に球場を出る。勝負に、こだわる。試合前には神棚に手を合わせる。「打たせてください。勝たせてください」。呪文のように唱えてから家を出る。こんなひたむきな姿を想像すると、花束がとても似合ってくる。

いや、もっと似合うのは、この、花のようなお嬢さんだ。懐に飛び込む娘を、ひしと抱きしめた姿は、崩壊著しい日本中のファミリーをも、温かく抱え込む鉄人パパのようでもある。

(中元孝迪)